

総合政策学部 <令和4年度一般選抜 後期日程>

<出題意図および解答例>

【作題意図】

海洋プラスチック汚染に関しては様々な問題が指摘されているが、ここでは日本と発展途上国を比較しつつ、日本で普通に生活しているには気づきにくい側面を取り上げた課題文とした。身近にプラスチック問題を感じられるレジ袋の有料化などが行われているが、広い視野で見た場合の問題を意識してもらおう。プラスチックごみの回収インフラや市民への周知が一定程度行き渡った日本と発展途上国では別の問題が存在し、それが解決したとしても最終的には3Rの徹底といった取組だけでは片づかない問題が残る点を読み取れるかを確認する。管理されずに捨てられるプラスチックが占める割合は日本では僅かだが、それが海洋プラスチック汚染の問題の本質となる点を、基礎的な計算問題も交えて読み取らせる構成とした。また、海洋プラスチック汚染は、加害者と被害者が重なり、かつ将来世代の人々や自然環境にも多大な影響を与える地球温暖化問題と同じ特性を持ち、解決には国家間や社会全体での合意が必要な問題である点を読み取ってもらおう。海洋プラスチック汚染の原因となるプラスチックごみ問題が問題視されつつも、生産量が減らない現実から、プラスチックとの付き合い方をどのようにすべきかを、課題文から読み取りつつ自身の問題として考えてもらおう。

【解答例】

問1 プラスチックごみの分別収集や処理システムが整い、99パーセントは適切に処理されている状況。

出題意図：日本のプラスチックごみに対する対応状況を確認させる目的。

問2 適正なプラスチック処理が進んだとしても、管理されずに捨てられたプラスチックごみの1%程度が環境中に漏れ出してしまうことで海洋プラスチック汚染につながっている。1%であっても廃棄量が膨大であれば問題である。アジアでは廃棄プラスチックのうち80%が管理せずに捨てられたプラスチックごみと言われ、この割合を1%まで下げることが可能であっても、人口の多いアジアでは年間数百万トンのプラスチックが海洋汚染につながる可能性が残される。(210文字)

出題意図：海洋プラスチック汚染の元となるプラスチックごみの現状について、日本と途上国の違いを意識させ、本質的な問題がどこにあるのかを意識させる。

問3 $14 \text{ 万} / 900 \text{ 万} \times 100 = 1.55$ 1.6%

出題意図：簡単な計算力を問う問題。廃棄物回収インフラが整っているとされる日本のプラスチックごみの現状を示す重要な数字でもある。

問4 清潔で快適な暮らしを求めてプラスチックを使用する私たちが、海洋プラスチック汚染という環境問題を被る。(50文字)

清潔で快適な暮らしを求めてプラスチックを使用する私たちが、海洋プラスチック汚染により快適な環境を奪われる。(53文字) でも良い。

出題意図：公害問題とは異なり、現代の環境問題は加害者に一般市民が含まれる点を意識してもらう。

すぐ上にある「加害を与える側は、清潔で快適な暮らしを求めてプラスチックを選んだ私たちです。被害を受けるのは、快適な環境を奪われた私たちと次世代の人々です。」を少し要約すれば正解。将来の快適な環境を奪う「海洋プラスチック汚染」の原因が、現在の快適な生活を支えるプラスチックにつながる因果関係を理解させる。

問5 以下の3通り考えられる。

安価なプラスチックは、どんな人にも平等に、安全で快適な暮らしを提供してくれるため。(41字)

プラスチックによって健康で快適な暮らしが維持されるため。(28字)

私たちの安全で快適な暮らしをプラスチックが支えているため。(29字)

出題意図：海洋プラスチック汚染の解決には生産量を減らす必要があるが、それを難しくしている一番の原因となる部分を意識してもらう。

問6 プラスチックは、安価に清潔で快適な暮らしを得るために必要不可欠であるが、海洋プラスチック汚染では快適な生活を求める自分自身が加害者となる。国内では、廃棄されるプラスチックの多くは分別され、回収サービスに乗って適切に処理される。それでも、1%程度は管理せずに捨てられたプラスチックごみとして環境中に漏れ出し、海洋プラスチック汚染の元となる。発展途上国ではこの管理せずに捨てられるプラスチックごみが排出量の80%に及ぶ。回収サービスが未発達なためであるが、途上国の農村部では、回収サービスにアクセスできない人口は今後も増えると予想されている。この量を減らすためには適正処理が必要であり、ノウハウを持つ先進国からの支援が必要である。しかし、途上国のプラスチックごみの適正処理が進んだとしても1%程度は環境中に漏れ、海洋プラスチック汚染は解決できない。今後増え続けると予想されるプラスチック生産量を減らさないと根本的な解決にはつながらない。しかし、安価なプラスチックは、経済的弱者の生活を支えるものであり、無くすことはできない。それを踏まえ、国際的枠組みで条約を制定し、社会全体でプラスチック消費量の削減が合意される必要がある。レジ袋の削減などは、プラスチックの消費総量からすれば微々たるものであるが、プラスチック消費を減らすきっかけとし、自ら科学的に考え解決策を模索する必要がある。(587字)

出題意図：個々人の行動では解決策が見いだせない難しい問題であり、対策が困難な理由を課題文に基づいてまとめる問題とした。個々人で出来る対策については、3Rの実践などを記載してくると思われるが、地球温暖化問題と同様に国際的な合意の元で削減目標を示し、個々人もその達成に向けてできることを実践するような様々な行動を必要とする課題だということを考えてもらう。課題文を理解し、組み立てることができれば解答できる。本文の中では取り上げられていない生分解性プラスチックなどが解答に入ることもあり得るが、その紹介に限られるような内容であれば加点対象にしない。